

まちとこぐひと Town and Cyclist



イベント報告 「ワンコリア～からほり を結ぶ 自転車まち巡りツアー」

10月26日(日)、大阪城公園で行われた「ワンコリアフェスティバル」と空堀地区で行われた「からほりまりアート」とをつなぐツアーとして、「ワンコリア～からほり を結ぶ 自転車まち巡りツアー」を開催しました。



コース概要は、『大阪カテドラル聖マリア大聖堂』や伊勢参りの起点であり鳥居の上部だけが残っている『玉造稲荷神社』、森ノ宮の由来である『鶴森宮(かささぎもりのみや)』など大阪の背骨・上町台地のまちなみを巡るもので、所要時間は約1時間でした。

あいにくの小雨であったため、なかなか参加者が集まりにくかったですが、それでも11名の方が参加してくださいました。

参加者からは、「普段から自転車で通っている所が多かったが、単に通るだけで町をこれほどしげしげ見たことはなかったのが驚きだった」、「来年も試みてください」、「ワンコリアフェスとまったく異なる感じがよかったですし可能性がありそうです」などの感想をいただきました。

雨の中、スタッフとして参加した会の皆さん、お疲れ様でした。また、実施にあたり、協力していただいた両イベントスタッフの皆さま、チラシを作成していただいた大阪デザイナー専門学校校の皆さま、ありがとうございました。

【報告：長洲会員】



「公共交通」としての大規模レンタサイクル構想 (その1)

自転車文化タウンづくりの会 会長 新田保次
(大阪大学大学院工学研究科 教授)

わが国では、レンタサイクルは小規模である。せいぜい「駅リンクン」に代表されるような駅でのピストン型(往復利用型)や観光地でのレンタサイクルにとどまる。多数のポートでの返却が可能なコミュニティ型は極めて少ない。小規模ピストン型というのがわが国のレンタサイクルの特徴だ。

しかしながら、ヨーロッパに目を転ざると、フランス、スペインでは、最近、大規模コミュニティ型のレンタサイクルが定着してきた。パリでは、ポート1500箇所、貸出自転車2万台と、それは大規模である。1km²当たり平均15箇所のポートがあり、300mも歩けばポートに出くわすことになる。デザインも統一され、街の雰囲気にもマッチしている。この手軽でおしゃれな大規模レンタサイクルは、従来の小規模レンタサイクルが単に需要に

応えて拡大したものではない。戦略的に整備されたのだ。鉄道やバスに並ぶ主要な都市の装置、「公共交通」として整備されてきたのである。

ひとつの車両にだれもが手軽に乗れるというのは、利用における排除の論理が働かず、れっきとした公共交通といえる。そして、化石燃料を消費せず排気ガスを出さず、健康にも優れている。環境性、健康性も併せ持つ、車と徒歩の間に位置づけられる小回りの効く乗り物はビジネスや買物、観光の活性化に寄与するかもしれない。また、経済的にも安上がりだし、駐輪場の面積も少なくすむ。このように利便性、環境性、健康性、経済性、効率性を有する大規模レンタサイクルシステムは非常に魅力的である。

このようなレンタサイクルを、わが国において実現するにはハードルが高いが、わが自転車文化タウンづくりの会では、大きな夢を掲げている。大阪市内中心部(JR環状線内)で1万台のコミュニティ型レンタサイクルを実現するという目標だ。では、この大規模レンタサイク

ルとはどのようなものになるのか、そのシステムについては検討すべき事項は、ポートの形態と配置、貸出・返却の方法、自転車の構造とデザイン、利用料金と徴収方法、車両の保管・修理場所、システム全体の維持管理方法および運営・経営方法などがある。

今回は、大規模レンタサイクル構想(その1)として、ポートの形態と配置、および貸出し・返却の方法について考えることにする。

【ポートの配置と貸出自転車数】

- ・ 300m、5分歩けばポートがあるように蜜に配置する。1小学校(1km²)に16ポートを目安にする。大阪市内中心部(中央区、北区、浪速区、天王寺区、福島区)の面積は33km²になるので、約500個所のポートを配置することになる。
- ・ このポート1箇所につき平均20台の自転車を配備すると、合計1万台になる。
- ・ ポートは駅に隣接して設置する。大阪中心部にある約50駅周辺には平均100台配備する。残りの5000台は、きめ細かくコンビニ、公益施設、商業・業務ビル、駐車場、公園等に配備する。

【貸出し・返却方法と料金】

- ・ 利用者はポートにて、クレジット機能付きのICカードを活用し、利用申請・許可および料金の決済を行う。PiTaPa、ICOCAが使えるものとする。また、このようなカードを持たない利用者は、デポジット機能付きのICカードをポートで購入し利用する。
- ・ 返却は、貸出ポートに限らず、すべてのポートで返却できるものとする。
- ・ 利用料金は時間制とし(10分10円刻みでもよい)、料金を安く抑えるために、自転車に広告を載せる。

取り急ぎ、思いつくまま書いてみましたが、続編を乞うご期待？

活動報告

●「自転車に関する活動グループとの交流会」

8月31日(日)

会場：堺市役所

時間：pm2:00~16:30

8月最後の日曜日、自転車に関する活動をしているさまざまな団体が交流・連携し、「適正な自転車利用環境づくり」を促進する活動を拡げていくことを目的とする交流会が堺市役所で開催され、当会からも藤江幹事長らがパネル・発表者として参加してきました。

以下は、同行された稲野さん(大阪経済大学3回生 あおぞら財団インターンシップ)からのレポートです。

開会のあと、まず、『堺市』の取り組みが報告されました。堺市では、「堺自転車環境共生まちづくり」に取



り組んでいます。

その基本理念は、「自転車のまち堺において、意欲ある市民のパワーを結集し、「自転車力」が活かせるまちづくり」と定めています。

「自転車力」とは、自転車に元々備わっている移動力や健康力、ふれあい力、産業振興力といった力です。この力は、市民のくらしだけでなく、観光・地域産業の振興などにも役立ちます。堺市では、不法駐輪などの諸問題を解決し、この力を活かしていこうと努力されています。

そして、この堺市のまちづくりの中心となって取り組んでいるのが、『堺自転車まちづくり・市民の会』です。

この会では、「さかい自転車デー」というものを毎月20日に開催しており、ここでは、ルールマナーの呼びかけや、自転車の無料点検などを行っています。また、「堺市自転車地図」の作成や、サイクリングイベントの実施を行っています。

3番目に、あおぞら財団の藤江さんが幹事長を務める『自転車文化タウンづくりの会』の報告がありました。

この会では、「自転車力を生かした文化に満ちるまち」を目指し、さまざまな方々と連携し、共に考え、それを実践しています。

特に、「自転車まち巡りツアー」というサイクリングイベントの数は、8月までに6回というボリュームを誇ります。

4番目に、『環境市民自転車チーム「ちゃり民」』の報告がありました。

この会では、サイクリングツアー、講演、勉強会の実施のほかに、交通社会実験に協力しています。この会のすごいところは、ラジオ番組に出演していることです。それも2つも！しかも、そのうちの1つは、第二金曜日のレギュラーです！

5番目に、『おおさか自転車マップづくりの会』の報告がありました。

この会では、「自転車を日常的に利用するひとのためのマップ」をコンセプトに、商品としてのマップを製作しています。このマップの面白い所は、マップに「スロープをとって」や「頭をぶつけないように！」といったアドバイスが書かれていることです。

6番目に、『じゃらん じゃらん』が紹介されました。

この会では、長居商店街の中にある、循環足湯と手湯の店であり、そのかたわらで、自転車に関する取り組みに参加しています。

活動の一環として、ボロボロになった自転車をリサイクルしたり、自転車発電でのコンサートを開いたりしています。

それぞれの会の報告が終わった後、休憩をはさみ、自由な話し合いが行われました。その中では、「自転車パトカー」といった面白い意見も飛び出しました。

また、「大阪自転車ホリデー」という本も話題になりました。

この本は、観光名所を紹介し、それらを自転車でめぐらせるコースを提案しており、地図には「この辺り歩行者と

クルマに注意」などのアドバイスが書き込まれています。

実は、この日の午前中にこの本にのっている堺東駅から海や仁徳陵古墳をめぐるコースを藤江さんとインターンシップ生3人（自分を含む）でサイクリングしました。

話し合いの後、閉会となり、その後、希望者のみで堺市役所の展望台ロビーに行きました。そこからは「仁徳陵古墳」を上から眺めることができます。古墳の周りを自転車で走った時には実感がありませんでしたが、上から眺めることで実感がわいてきました。



●「研究会」 9月12日（金）

会場：キャンパスポート大阪（大阪駅前第2ビル4階）
時間：pm6：00～7：30

当会初の研究会が、交通まちづくり学研究会との共催として開催しました。



講演は徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス部（工学部建設工学科）の山中英生教授、そして、当会会長及び交通まちづくり学研究会代表である大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻の新田保次教授によって行われました。

第Ⅰ部の山中教授の講演では「自転車走行空間の現状」や、「オランダの自転車走行空間の整備事例」、「混合交通状況における歩行者と自転車の危険を感じる距離、すれ違い幅などのギャップ」など、日本の自転車利用者の特徴や道路環境などを考慮に入れ、今後の自転車走行空間のあり方について述べられました。

第Ⅱ部の新田教授の講演では「オランダのサイクルタウン『ハウテン』の自転車道路網の事例・特徴」や、「千里ニュータウンをケーススタディとした道路整備案（道路ネットワーク案）」など、近隣住区論を越えて、利便性や環境性、安全性の観点から今後の自転車道路網のあり方について述べられました。



（新田教授 講演レジュメより）

自転車文化タウンづくりの会が発足されてから初めてとなる研究会でしたが、企業の方、研究員、一般の方、学生などで会場はほぼ埋めつくされ（参加者は54人）、第1回研究会は盛大な拍手と共に無事に終えることができました。

【報告：関元会員】

●「視覚障害者の方との意見交換会」 10月3日（金）

会場：あおぞらビル
時間：am10:00～12:00
参加者：視覚障害者とガイドの方8人、自転車文化タウンづくりの会6人、計14人

◎自己紹介（抜粋）

- ・Mさん（城東区）
－自転車問題を考える会が出来たことがうれしい。自転車に恐怖を感じる一方で風をきり走る自転車に乗る事にあこがれを感じている。
- ・Sさん（東淀川区）
－歩行中自転車はわかりにくく、自動車の方がわかりやすい。
- ・Kさん（東大阪）
－町づくり等に関連している。
- ・Hさん（松原市）
－自転車マナーを守ってほしい。
- ・当会からの参加：6名（自己紹介は省略いたします）



◎藤江幹事長より「自転車文化タウンづくりの会」の説明

◎視覚障害者の方の主な発言

○マナーに関する意見

- ・歩道上に自転車を並べてあって迷いこんだら出口もわからない
- ・自転車と接触し杖が折れることもある。その場合でも自転車は素通りである。
- ・自転車に脅威を感じている。
- ・建物側を歩けば安全だと思いきや、建物側を走る自転車が有る。
- ・歩道で、自転車通行禁止の所を走る自転車が危険。
- ・ベルは、「どけ」と脅しているように聞こえる。
- ・後ろから抜く時やすれ違う時は、速度を落としてほしい。
- ・車との間を自転車が走り、ひっかけられる時が有る。マナーが必要。視覚障害者が歩くと文句を言う人もいる。目の悪い人は一人で歩くなと考えているのではないか。
- ・自転車利用者は譲るという気持ちがない。又、一度自転車に乗ったら、信号待ち等でも降りようとししない。
- ・子供とママチャリユーザーのおばさんのマナーが悪い。



○ハードに関する意見

- ・歩道上の標識
どこにあるのかわからない。認識できない。
- ・自転車道がわかりにくい。
- ・大阪中央環状線は、歩道と自転車道が完全に分離されているため、安心して歩ける。(植え込みで分離されている)
- ・西淀川のバス通り 歩道が狭い。
- ・自転車道の上にバス停が設置されている。

○提案

- ・放置自転車を減らすために、自転車の個人所有を考え直しては。ビルごとに自転車のシェアなどをすればよい。共有化して、1台を複数の人で使用し、自転車の有効活用を考えては。
- ・信号待ち時
自転車を建物側に止めず、車道側に止めるようにしてほしい。視覚障害者は、建物側を歩くことが原則。
- ・自転車に乗る際、マナー等一定の研修を受講する必要があるのではないかと。乗り物であるとの自覚をしてほしい。研修の最低条件は、ルールとマナーの指導。
- ・自転車を電車に乗せることにより、放置自転車対策及び駐輪場不足対策になるのでは。

○その他

- ・バスを降りる時、後ろの人のために早く降りなくてはと思い、急いで前に進んだとたん、走行して来た自転車とぶつかる事が何回かあった。自転車を乗られる方の、バス停でのマナーを希望する
- ・自転車は車と違い、音を感じないため脅威を感じている。
- ・信号待ち時
自転車を建物側に止めず、車道側に止めるようにしてほしい。視覚障害者は、建物側を歩くことが原則
- ・点字ブロックを目安に建物側を認識する。また、風の具合や音など雰囲気建物側がわかる。
- ・今後、電気自動車が増えることは深刻である。音での認識が出来なくなる。
- ・被害を受けた時、加害者がわからないため、届けることができない。
- ・健全者は、視覚障害者が怖い思いをしていることを知らないし、知ろうとしない状況である。また、視覚障害者が置かれている状況を知ってもらう努力も必要。



○自転車文化タウンづくりの会メンバーより

- ・視覚障害者の方が建物側を意識して歩行していることを、初めて知り自転車で通行するときはもちろん、歩行時も意識する必要があると思った。
- ・自転車が乗り物で、人を傷つける可能性が有るという

ことを子供たちにも伝える必要があると思った。

- ・視覚障害者の方の話を生で聞けて勉強になった。バスから降りた時の危険性など、今日聞いた話を仲間に伝えていきたい。
- ・今後、視覚障害者の方の話を聞くなどの場を織り込んだ、研修、講座などを考えたい。
- ・自転車に乗りたいという声もあったので、タンデム車などで、視覚障害者が自転車に乗る機会を作れたらと思う。

【報告：浅井会員】

活動報告 自転車寺子屋

●第3回

8月27日(水) pm 7:00～ 於：あおぞらビル

第3回では、以下の事項が報告・検討されました(題のみ)。

自転車走行空間について

- なぜ、『普通自転車』というくくりがあるのか？
- 車道の左端の空間について
- 自転車の標識・表示に関して
- 自転車走行空間の確保について
- バスレーンに自転車が走行する場合
- 歩道上の舗装の問題

道路標識がおかしいと思われる場合

- 国交省の標識BOX(インターネットで受付)に言う？

次回(もしくはこれから)のテーマについて

- ・『道路交通法一部改正について』
- ・『雨の日の走り方』
- ・『歩道上の暴走(違反)行為』
- ・『事故をおこした後、どうするのか?』
- ・『罰則・罰金について』
- ・『標識の疑問』

●第4回

9月17日(水) pm 7:00～ 於：あおぞらビル

さて、月に一回開催されている自転車寺子屋が一昨日開催されました。これまでは、道路交通法改正や走行環境などについて話がされてきました。

この会でもマナー、ルールの話はいつも出ますが、「じゃ、どうすんねん」となかなか結論までたどり着きません。

今回も、自転車のマークの標識について喧々囂々でしたが、結局分からないので、「警察に訊こう!」ということになりました。

また、「自転車の標識があっても、路面の色が違って、視覚障害者の人には分からへんやん」という話になりました。

そこで、「一回政所さん(*1)に視覚障害者の方はどんな風を感じてるのかを直接訊いてみよう」ということ

になりました。

とはいえ「来てもらうのも大変なのでは?」、「ニュースレターに意見を書いてもらってはどうか?」、「テーマを設定して議論した方が良いのでは」という意見も出ました。私(事務局)が政所さんに問い合わせることになって(*2)、第4回の会議は終わりました。

【*1】 当会メーリングリストに参加の視覚障害者、視覚障害者福祉協会勤務。

【*2】 この会での提案などから、翌10月3日の「視覚障害者の方との意見交換会」につながりました。

●第5回

10月22日(水) pm 7:00～ 於：あおぞらビル

今回は、前回で課題になっていた「自転車専用標識のとらえ方について」「視聴覚障害者からの意見」などをテーマに進みました。



自転車専用標識(左図)はこれまでも、道のつくり(例えば、段差などで歩行者と自転車が区分された道や、単に普通の歩道を色分けしただけの道)に関わりなく設置されていることや、近年よく見られるようになった「自転車通行可」の路面表示と併用されているケースもあって、寺子屋の参加者からその効力が不明確だと指摘されていました。この件について、事務局が大阪府警へ問合せすることになり、その結果がここで報告されました。

報告によれば、その標識は道路管理者(=大阪市)が設置しているもので、一種の「誘導」であり、「規制」ではないのだ、という驚くべき回答でした。標識の設置を公安委員会ではなく、自治体がしたということ、また守る義務のない標識だという報告に、一同はしばし騒然となりました。

視覚障害者の方からは、「信号待ちの時、横に広がった自転車にぶつかってしまうので危険」「自転車に乗る人には”目の悪い人は一人で歩くな”という人権意識の低い人がある」「自転車の他にも、シニアカーや電動アシスト車など、静かでスピードの出る乗り物が増えてきている。これらには規制はないのか?」などの、意見や指摘がありました。

また、大阪市が進めている阿倍野再開発について、「道路幅40mが決まっているだけで、詳細は未定」(阿倍野再開発事務所)だという問合せ報告も、別の参加者からありました。

これらを踏まえて、「大阪市の担当者に来ていただき、自転車の現状と今後の方向性について話をしてもらおう」「(当会の)提言づくりについて、道筋を検討したらどうか」など、この次のアクションに向けての提案がされました。



会員紹介



関釜フェリー乗り場にて

柏原 誠 大阪経済大学講師

今夏に入会させていただきました大阪経済大学講師の柏原です。小学校4年生の時、自転車が買い与えられ、学校と家と近所の公園ぐらいたった「世界」が、どんどん広がっていきました。自転車は、僕に冒険心や好奇心を大いに与えてくれました。知らない道があれば、どこへでるか分からないけれど行ってみようか、という具合に。

長年、大阪市内の港区や中央区といった自転車で買い物にも繁華街にも行ける便利なところに住んできました。自転車は便利な乗り物という意識が強かったのですが、政治学を勉強していると「パブリックなもの」に関心を持つようになります。最近では自転車を「パブリック」という点から見たらどうなんやろとか考えております。



私の勤めている大学の学科では、学生が実際に地域に出て課題を調べて提言をつくる「地域調査」という科目があります。この秋学期では、二十数名の受講生を得て、地元東淀川区の自転車マップづくりに取り組んでいます。担当者である私自身が話はわかっているつもりですが、実際は何もわかっていないという状態で、幹事長の藤江さんに技術指導をお願いしています。その他、必ずしもボランティアの高くない学生や、15コマの授業時間数でどれだけできるかという不安も抱えつつ、何とか形になって、地元に貢献できるのと、もちろん自転車文化タウンのアイデアが広がるのと、本学学生の自転車のマナーがよくなればと考えています。

今後ともよろしくお願いします。

交通死亡事故発生状況 状態別

2008年年初～10月末

	大阪府			京都府			兵庫県		
	発生件数	前年増減	構成比	発生件数	前年増減	構成比	発生件数	前年増減	構成比
自動車	23	-10	14.2%	23	2	30.3%	47	-19	29.4%
二輪車	60	-6	37.0%	13	4	17.1%	20	9	12.5%
原付※1		0		6	-6	7.9%	18	4	11.3%
自転車	34	-6	21.0%	5	-5	6.6%	20	-6	12.5%
歩行者	45	-17	27.8%	28	7	36.8%	55	-8	34.4%
その他	0	0	0.0%	1	1	1.3%		0	0.0%
合計	162	-39	100.0%	76	3	100.0%	160	-20	100.0%

	3府県合計			全国(年初～9月末)※2		
	発生件数	前年増減	構成比	発生件数	前年増減	構成比
自動車	93	-27	23.4%	1,267	-250	35.1%
二輪車	93	7	23.4%	406	0	11.3%
原付※1	24	-2	6.0%	315	-41	8.7%
自転車	59	-17	14.8%	499	-24	13.8%
歩行者	128	-18	32.2%	1,112	-198	30.8%
その他	1	1	0.3%	8	0	0.2%
合計	398	-56	100.0%	3,607	-513	100.0%

※各府県警、警察庁発表資料(速報)より
 ※1、大阪府では、原付の件数は自二輪に繰入
 ※2、全国件数は各府県より一月遅れます

活動経過 (●: 当会主催 ◎: 他団体との共催 ○: 当会以外の主催)

事項	開催日時	会場・集合地/主催
○自転車に関する活動グループとの交流会	8/31(日)	堺市役所 本館3階会議室 堺 自転車のまちづくり・市民の会
◎第一回研究会	9/12(金)	キャンパスポート大阪(駅前第2ビル4F) 交通まちづくり研究会との共催
●第4回自転車寺子屋	9/17(水)	あおぞらビル 19:00～
○京都・自転車街角セッション(第4回)	9/25(木)	ゼスト御池(御池河原町交差点地下) / 京都市建設局 自転車政策課
●視覚障害者との意見交換会	10/3(金)	あおぞらビル am10:00～
○ベイサイド・パーティー	10/5(日)	舞洲アリーナ、各ラリーポイント / 大阪市・此花区
○北河内自転車道ポタリング to 山田池公園	10/18(土)	集合: 地下鉄大日駅前 / 大阪府枚方土木事務所
●第5回自転車寺子屋	10/22(水)	あおぞらビル 19:00～
○京都・自転車街角セッション(第5回)	10/24(金)	ゼスト御池(御池河原町交差点地下) / 京都市建設局 自転車政策課
●自転車まち巡りツアー ーワンコリアフェスティバル～からほりまちアートをつなぐ	10/26(日)	大阪城公園 ⇄ 空堀地区『練』
●幹事会	10/30(木)	あおぞらビル5F pm7:00～
○ワークショップ 「おおさか自転車マップをつくろう！」	11/9(日)	集合: 扇町公園 / おおさか自転車マップづくりの会・ 大阪市立住まい情報センター

行事予定 (●: 当会主催 ◎: 他団体との共催 ○: 当会以外の主催)

事項	開催日時	会場・集合地/主催
●第6回自転車寺子屋	11/20(木) 19:00～	あおぞらビル
○ワークショップ 「おおさか自転車マップをつくろう！」	11/24(月) pm1:00～	集合: 生国魂神社 / おおさか自転車マップづくりの 会・大阪市立住まい情報センター ※参加費: 300円
○出張「自転車デー」 in 区民まつり	11/24(月) am10:00～4:00	美原中学校(堺市美原区) / 堺 自転車のまちづくり・ 市民の会
○京都・自転車街角セッション(第6回) テーマ: 「おしゃれな自転車環境」 「ファッショナブルな自転車環境」	11/25(火) pm1:00～	ゼスト御池(御池河原町交差点地下) / 京都市建設局 自転車政策課

- 京都・自転車街角セッション（第7回）
 テーマ：「さまざまな自転車カルチャー
 が存在する街・京都」
- 幹事会（+新年会）
- 12/25(木) ゼスト御池（御池河原町交差点地下）／ 京都市建設局
 pm1:00～ 自転車政策課
- ‘09/1/14(水) あおぞらビル
 pm6:00～ ※会のあと希望者にて新年会（pm8:00～）

各地・全国のごき

◇電動自転車パワー補助率変更 警察庁は、原動機で人力を補助する「電動アシスト自転車」の補助率を最大2倍に引き上げることを決めた（10月2日）。近く道交法施行規則の一部を改正し、12月1日に施行する。人力と原動機で補う力の比率はこれまで、時速15キロまでは1対1（補助率1）とし、同24キロに達するまでに補助率をゼロとする決まりだった。

◇自動車業界と自転車業界による共同キャンペーン 自動車に占領されがちな日本の車道通行を見直そうと、自動車業界と自転車業界が、互いの安全走行を呼びかける統一ポスターを作成。事故防止に向けた共同キャンペーンに乗り出している。両団体と「日本自転車普及協会」の3団体が計約5万枚のポスターとチラシを作成。秋の交通安全運動から12月までのキャンペーンとして、ポスターは自転車販売店などに掲示し、チラシは自転車の交通安全教室などのイベントで配布する。自動車業界と自転車業界が共同してキャンペーンを行うのは初の試み。

◇「つるむDEおおさか」 来年の開催に向けて準備が進められている都市イベント「水都2009」。これに参画している自転車による町づくりプロジェクト「つるむde大阪」の企画づくりが進行中です。臨時運航される船にポタリングを組み合わせた「クルーズ&ウォーク&サイクル（仮）」や、自転車に注目しているアーティストとのコラボレーションなど、様々な企画が形になりつつあります。

◇大阪市の放置自転車対策 新聞発表によると、大阪府は自転車放置ワースト1（政令市中）返上へ向けて放置自転車の一掃作戦に乗り出すとのこと。具体的には来年度の取り組みとして、キタ、ミナミの放置禁止区域を大幅に拡大、各地元商店街・町会との連携による撤去の励行に、商業施設への駐輪場設置の条例化も検討するとのこと。

編集後記 Editorial

自転車の駐輪や放置というのは、合法不法を問わず一種の生理であります。例えば排泄物であればこれを取除こうというのは至極当然ですが（品のない喩えで失礼）、しかしその生理行為までは否定できません。ところが自転車の場合、不法駐輪や放置だけが問題にされて、そのような生理の生じるプロセスに一向に目が向けられないのが、編集子には不可解でなりません。

大阪市の一掃作戦には何の新味があるのだろう。現場担当者のご苦労は伝え聞きますが、考え方を根本から見直さねばならないのは、既に多くの人たちが気付いているところかと思えます。

『まちとこぐひと』第2号をお届けできたのも、そうした方々のご協力のおかげです。まだまだ微力ですが、「おしっこしてはいけません!」の掛け声に変わる何かを、これからも提供してゆきたいと思えます。（川）



堀金箔粉（京都 御池）にて

「自転車文化タウンづくりの会」

□会員数

一般会員:41名、学生会員:4名

メンバーリスト登録数:83アカウント

□賛助会員

(株)キクテック

中村博司（自転車博物館館長）

総合調査設計(株)

(株)ワークルーム

CASE/まちづくり研究所

(財)公害地域再生センター（あおぞら財団）

.....順不同、敬称略

ご入会の案内

お申込資格

- ・ 当会の設立趣旨をお読みいただき、ご賛同いただくことがお申し込みの資格となります。
- ・ 他に必要な資格は一切ありませんが、できれば会の活動においていただくことをお勧めいたします。

お申込方法

- ・ 入会申込書を当会ホームページよりダウンロード
- ・ 必要事項をご記入の上、事務局・あおぞら財団までご送付下さい。
- ・ 年会費は、事務局（あおぞら財団）で現金でお支払い頂くか、下記の銀行口座にお振込み下さい。
- ・ 賛助会員お申込の方は、あおぞら財団までご一報下さい。

年会費・口座

一般会員 2,000円
 学生会員 1,000円
 賛助会員 5,000円/1口

東京三菱UFJ銀行 店番:006 口座番号:4563916
 口座名:自転車文化タウンづくりの会 幹事長 藤江徹

『まちとこぐひと Town and Cyclist』 第2号

編集人：川内義行

発行日：2008年11月16日（概ね隔月発行）

発行所：「自転車文化タウンづくりの会」

事務局：公害地域再生センター（あおぞら財団）内
 大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4F

Tel 06-6475-8885 Fax 06-6478-5885

e-mail：webmaster@aozora.or.jp

ホームページ：

http://sky.geocities.jp/cycletown_osaka/index.html/

ブログ：<http://blog.goo.ne.jp/cycletown-osaka>

※本誌記事の無断転載はお断りいたします。転載にあたっては、事前に事務局までご連絡のほどお願いいたします。